

N コース <万野原新田地区>

万野原開墾の歴史コース

— みどころ —

水が得にくい万野原新田は、古くから開墾が試みられてきたが成功せず、明治時代によりやく本格的に開墾された。困難な開墾に挑んだ先人たちの苦勞の跡を訪ねる。

みどころポイント 寺社 卍 卍



⑤大富士小学校



④井戸



③馬車軌道跡



②富士講の碑



①法華寺

スタート

大富士
交流センター
万野原新田4136の6





⑥二番堀



⑦万農庵跡



⑧甲子



⑨琴平神社



⑩長屋通りの
道祖神

ゴール

距離：約5km 所要時間：約2時間

マークの凡例： 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ ⓘ 駐車場 P 寺院 卍 神社 卍
石造物 石造物 〃 ルート — 馬車軌道軌道敷跡 - - - - 推定御神幸道

— コースのみどころ —

①法華寺

開墾に入った入植士族が入信していたが、離農する者が多く、現在入植士族の子孫は数軒だけだという。

また、かつて法華寺の祭礼は「みやはら宮原の鬼子母神さんの祭り」といわれ大変賑わったという(平成元年(1989)再興)。

②富士講の碑

「不二山御麓一心山窟」への道標と考えられる。「一心山窟」とは「大日穴」とも呼ばれた万野風穴まんのふうけつのことを指すと考えられる。この碑は文政2年(1819)に造立されたもので、碑文から富士講信者により建てられたと分かる。かつては県道の東側にあった。

③馬車軌道跡

明治から昭和初期にかけて、市中心部～市北部間に馬車軌道(馬車鉄道)の「富士軌道」が運行していた。富士軌道は木材などの貨物や旅客を運んだ。この付近に「万野駅」があった。

④井戸

この地域は万野用水だけでは水量が不十分で、季節によっては生活用水の確保にさえ苦勞した。そのため、雨水を貯めたり、用水を庭の池に引き入れたり、深い井戸を掘ってわずかにしみ出る水を利用するなど工夫していた。

⑤大富士小学校

市立大富士小学校は、明治時代の小学校「ごしょうしゃ五松舎」や「がくろくどう岳麓洞」(市立大宮小学校前身)の分校などを前身として、昭和25年(1950)開校した。

⑥二番堀

大雨が降ると、富士山麓の傾斜地を流れ下る雨水で畑が流され、さらに下って市街地にも被害を及ぼすことがあった。そこで、一番堀・二番堀・三番堀を開削し、ゆみざわ弓沢川に大水を流し被害を防いだ。

⑦万農庵跡

万農庵は、江戸時代末に大宮町(現市中心部)の町役人角田桜岳かくたおうがく(佐野与市)が万野原開墾の拠点とした場所である。

万野原地区は江戸時代初期から幾度か開墾が試みられて来たが成功せず、明治時代には入植士族が開墾に入った。万野原開墾は、明治時代以降にようやく成果が上がるようになった。

⑧甲子

甲子の日の晩に夜遅くまで飲み食いをして祀る甲子待ちの石碑である。文久元年(1861)と記されており、当時既に万野原地区まんのほらの開発が進められていたことが分かる。

⑨琴平神社

水の神・農業の神として香川県の金比羅こんびらさんを勧請し祀っている。江戸時代初めに勧請されたが開墾の失敗により荒廃し、幕末の開墾の際に再興された。

また、境内には、市内内野の横手沢うつのよこてざわにあった万野用水まんのの石樋が置かれている。

⑩長屋通りの道祖神

明治時代、開墾に入った入植士族の屋敷があった場所が「長屋」と呼ばれている。長屋の中心となる通りが「長屋通り」である。長屋通りには自然石を祀った素朴な道祖神がある。